生野高校
77期 1年

学年通信 悉有

第3号（2022年4月28日）

大阪府立生野高等学校
大阪府松原市新堂１－552
072-332-0531(学校代表)
072-332-**0711**(学年直通)

【学年通信は保護者の方にも見せてください】

◆入学から１カ月経ちました

実質の授業日数は 12 日間ですが、ひとまず４月が終了です。学校の学習、部活を含めた自分のやりたいことに、日々きちんと向き合えるよう、ペース構築できたでしょうか？（もちろん家の用事のお手伝いも積極的にやってくれているでしょうから、さらに忙しいこととは思うのですが)。

5/2 の遠足をはさんで、ここから大型連休に入ります。４月中の授業でやり残したことを回復する時間を必ず確保しましょう。授業で理解しきれなかった内容をしっかり消化したり、小テストの範囲をもう一度総点検をして、取りこぼした部分を補ったり。日常のサイクルのなかでは、こうした時間を確保することがなかなかできないことも多いので、休みの期間を使って取り戻す作業が欠かせません。いまのうちに、必ず土台を固め直し、固めた土台の上に５月以降の授業で学んだ内容を積み上げていく――ガタガタの土台のままで新しい内容を積み上げても、上に載せたものが傾いて崩れていくだけです。５月以降に学ぶ内容をロスしないためにも、４月の内容を固めておくことが大切なのです。

◆万博記念公園・国立民族学博物館

集合：８時 20 分、生野高校バス内

昼食：各自で準備　／　解散：16 時 30 分頃

５月２日（月）の遠足は、学年全体で万博記念公園に行きます。担任の先生の連絡をよく聞いて、忘れ物のないように注意してください。国立民族学博物館は、展示点数が約１万 7000 点という、とてつもなく大きな博物館です。とても１時間で全てを見ることはできないと思いますが、各班に民博クイズも用意してありますので、頑張って答えを探してください。昼食用にレジャーシートを必ず持参してください。レジャーシート１枚に１人が座れば、食事の際に距離を保てます。もちろん黙食です。他人のレジャーシートに一緒に座ったら意味がありませんよ。

◆「77 期 学年」のクラスに入りましょう

Google Classroom の「77 期 学年」のクラスに、４月中には参加しておいてください。４月 27 日のお昼時点で約 30 人が未参加です。全員が入ってくれていないと、学年全体の連絡などが Classroom で送れません、連休明けすぐの実施なので、遠足に関する情報も「77 期 学年」のクラスで連絡する可能性があります。クラスコードから参加することも可能です。

クラスコード　（ブログ版では省略します）

【保護者のみなさまへ】

保護者の方用に「77 期 保護者」のクラスもあります。現在、７割程度の保護者の方にご参加いただいています。任意ではありますが、ご参加いただく際には、お子さまに 4/14(木)にお渡ししました保護者用アカウントを使って Google Classroom にログインしてください。全ての保護者アカウントに対し、保護者用クラスの招待を送ってあります。

◆教材の持ち帰りについて

学校に教材を置いて帰っている人もいると思いますが、基本は持ち帰りです。全ての教材を持ち帰るべきだとは言いませんが、帰ってから復習や課題、予習をする観点から、主なものは持ち帰ることが望ましいと思います。また、新型コロナウィルス感染症に関連して出席停止になることも想定されます。濃厚接触などで自宅待機になって、配信で授業に参加する際に、主な教材を学校に置きっ放しでは、せっかくの授業配信も効果が半減してしまいます。大型連休に入るので、主な教材は一旦持ち帰りましょう。

◆当面の予定

5 / 2(月) 遠足
6(金) 参観＋ＰＴＡ総会中止（午後は授業に）
10(火) 運動器検診・内科検診　未受検者検診
11(水) 歯科　未受検者検診
12(木) １年生進路講演会 ／ 検尿二次
17(火) 体育祭準備・球技大会
18(水) 体育祭

＜以下、教員紹介はブログ版では割愛します＞

ブログ版
限　　定

生野高校　花だより

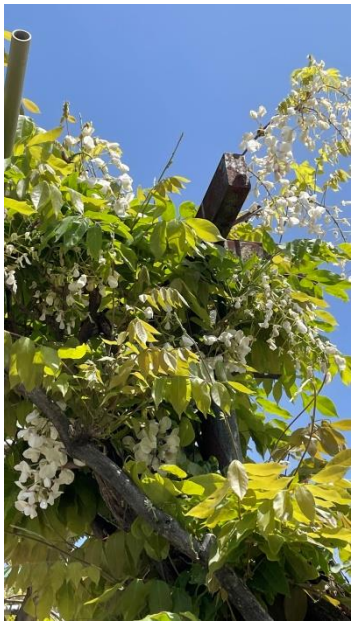
５月６日の授業参観が中止となりました。
ご来校いただけない代わりに、校内紹介を
兼ねて花だよりをお届けします。

▲ 中庭のつつじが花ざかりです。
入学式後に、一気に開花が進みました。

▲ 梅の木に実がなっています。左後方の
岩は校訓を刻んだ「五綱領」。入学式
後に、ここでクラス写真撮影をしました。

◀ 中庭の渡り廊下
付近のハナミズキ。
ピンクと白の花弁が
きれいに開きました。

グラウンドに面した
藤棚のフジ。通用門
側のフジは紫、正門
側のフジは白い花を
つけます。 ▶



この時期、校内は緑と花が色鮮やかで、心を和ませてくれます。生徒のみなさんにも、
普段から、手元のスマホの画面で一息つくのではなく、前を見て、花を見て、次の一歩を
踏み出す元気を受け取ってほしいと感じています。